

パブロ・ピカソ『ゲルニカ』の世界

1. 牡牛 (ミノタウロス)



牡牛はミノタウロスに見立てることもできる。暴力、破壊の象徴。また、フランコ、ファシズムの象徴。(3)の女が差し出す真理の灯火に照らされて、牡牛は顔を背けている。

ギリシャ神話の怪物ミノタウロスは、暴力、好色、平和など、様々な象徴であり、善悪どちらにも解釈することができます。

ピカソは大の闘牛好きで、ミノタウロスを集中的に描いていた時期もありました。そのことから、ミノタウロスをスペインの象徴とする解釈もあります。



反戦の意を込めて

爆撃の様子をリアルに描くのではなく、様々な角度から見た姿を画面にまとめて描くキュビズムや、現実を超越したシュルレアリスムなどの手法で描いています。これによって、ゲルニカ爆撃だけでなく、戦争の悲劇さを人々に訴えています。

「ゲルニカ」に描かれているものとは？その意味とは？

「ゲルニカ」は、スペインの内戦を題材にした作品です。1937年に反乱軍のフランコ将軍を支援するナチスによって行われたスペイン北部の小都市ゲルニカに対する無差別爆撃が題材になっています。この事件は、当時ファシズムの残酷さを象徴するものとして、国際的に激しい批判の対象とされていました。

制作: 5年10月26日

作者名
(ニックネーム)

太郎君